

NPO 法人 ベーシックライフインフォメーション協会 会報 第25号

日台学校交流が根付く

**台北市立第一女子高級中学が
お茶の水女子大学附属高等学校
を訪問**



今年も日台の学校交流が行われ、台北市立第一女子高級中学（北一女）の生徒・教員が、国立お茶の水女子大学附属高等学校を訪れました。この交流事業は当協会の橋渡しがきっかけで平成25年（2013）から相互訪問が実施されているもので、コロナ禍で一時的に中断後再開し、今年4月25日に台湾から生徒と教員48名が来航しました。北一女一行は当日10時半、大型バスで学校に着。お茶の水女子大学附属高等学校生徒の歓迎を受けて会場の大学講堂に入り、盛大に歓迎セレモニーが挙行されました。



お茶の水女子大学附属高等学校HPより

交流の橋渡しをした当協会の加藤と田代、及び5人の旧制北一女卒業生が招待を受けセレモニーに参加し、歓迎に加わりました。女性92歳、男性90歳を筆頭とする招待者7人は学校交流が継続し

ていることを目の前にして喜ぶとともに、今後の継続発展を祈念しました。今秋には、お茶の水女子大学附属高等学校が、訪台することになっています。吉田裕亮校長引率の下、10月18〜21日、北一女を訪問し交流を深める予定です。

交流記念植樹の しだれ桜も満開に

平成27年2月に国立お茶の水女子大学附属高等学校と台湾の台北市立第一女子高級中学（北一女）の学校交流を記念して植樹した、しだれ桜が見事に満開となりました。

当協会が両校交流の橋渡しをしたときに、北一女関係者の一人であった元秘書の駱静如さんが3月27日日本に来られたので、歓迎の意を込めて当時の理事長田代と理事の加藤が案内しました

8年前に植えられた記念樹は大きく3メートルほどに成長して、ピンク色に包まれた姿が校舎からも遠望できるものになっていました。駱さんも大喜びでした。



NPO Basic Life Information Association Newsletter Contents

Japan-Taiwan school exchange has taken roots	1
New series: Founder of Japan highrise building	2
Arcades in Taiwan city connect Space and Time	3
Rescue dog "Gou" dies abroad in Taiwan	4
Fallen leaves return to roots, "Gou" returns home	4
Receiving cremains of Rescue dog "Gou" back home Japan	5-6
Fallen leaves return to roots, "Gou" returns home (original script)	6-7
2023 Annual Meeting Report	7
Members movement and exchange	7
Editors Note	8

NPO ベーシックライフインフォメーション協会 会報目次

日台学校交流事業が根付く	1
新連載 日本超高層建築の父(1)	2
寄稿 台湾 亭仔脚が繋ぐ「空間」と「時間」	3
元災害救助犬「小江」台湾で客死	4
落葉は根に帰り 小江は故郷に帰る	4・5
元災害救助犬「小江」の遺骨を日本に迎えて	5・6
落葉は根に帰り 小江は故郷に帰る (原文)	6・7
令和5年度総会報告	7
会員動静・団体交流	7
編集後記	8

NPO 基礎生活資訊協會 會報目錄

台日學校交流落地紮根	1
新連載：日本超高層建築的先峰(1)	2
寄稿：台湾 亭仔脚聯結「空間」與「時間」	3
前搜救犬「小江」國外在台灣過世	4
落葉歸根、小江回家吧 紀怡如	4・5
接受前搜救犬「小江」的骨灰 回家到日本	5・6
落葉回根、小江回家吧 (原文)	6・7
2023年度總會報告	7
會員動作・集團交流	7
編輯結語	8

新連載 講談調読み物 第一回

日本超高層建築の父

郭茂林

講談師 一龍齋貞花

日本最初の超高層建築震が関ビルを完成させた郭茂林。完成当時『巨塔の男』空を拓く茂林」と新聞で紹介されましたが、余り知られていません。

「茂林君、台湾にいるより日本に行った方が、君のプラスになるよ」

台北工業建築科、現在の国立台北大学を卒業という時、郭の能力を見抜いた日本人の校長先生が、「鉄道省(現在のJ.R)から求人があるぞ」

「有難うございます」

「台湾こそ自分の技術を生かす道」と、台湾へ渡り烏山頭ダム造った八田興一と逆です。

一九二一年(大正十年)、日本統治時代の台北市に生まれ、第二次世界大戦が始まる前の昭和十五年、十九歳の時東京へ。鉄道局の建築課長のもとで図面を描いていたが、割り当てられた仕事ばかりで少しも面白くない。

「建築デザインを本格的に勉強したい」

郭の望みを知った課長が、

「私の同級生で、日本近代デザイン学を確立した、東大の岸田日出刀教授を紹介してあげよう」

「郭君、今助手の採用枠がないから別の先生を紹介しよう、どうかね」

「私は、先生のもとで勉強したいんです」と、毛筆で岸田教授に学びたい旨を切々としたため送ります。

郭の熱意に三カ月後、「研究助手として採用する。但し東大の教職員は総て公務員、日本の公務員は、日本人しか駄目だ」

「日本人しか、ダメなんですか」
「日本国籍に帰化したらどうだね」

「ハイ、先生のもとでどうしても勉強したいです。郭の名字を変えないでもよければ帰化します」

名字を変えない条件で日本に帰化し、岸田教授と吉武泰水教授の下で、昭和十八年から二十六年まで東大の研究室に。この間びつりと技術を学んだかという、岸田先生は、

「建築のことは私の本を読めばいい、講義に出なくてもその先生の書いた本をよく読んでおけば大丈夫だ。私について来なさい」と、よく教えられたのが人間学であり、社会学でした。抱持ちでお供をすると、

「私の横で黙って話を聴いていなさい」
著名な方と、話し合いをされるその脇で、じつとやりとりを聴く。

「いいか、相手がどんなに偉くてもものおじしてはいかん。その人が言っていることが、本物がどうかよく聴いて判断するんだ」

こうして先生の対応ぶりから、人を見る目、全体を見る目、本物を見極めることを学び、各界一流のエキスパートたちとの交流が生まれ、強力な人脈となっていくたのです。

「施主と建築家の関係、お金を出すお施主様だからといって、主従の関係ではない。施主は金を出し、建築家は知恵を出す。対等なんだ。遠慮することなく自信を持って提案すれば、必ずその仕事は成功する」

岸田教授は、東京帝国大学建築学科の実力者で、東大安田講堂の建築をはじめ、多くの研究者や建築家を育て、日本を代表する丹下健三も弟子の一人、郭は丹下健三と兄弟弟子です。そして建築計画学を初めて確立した吉武教授のもとで、学校・図書館・病院といった公共施設的设计から、住宅公団のモデルプランまで、二人の実力者のもとで十八年間過ごし、そこで蓄積したノウハウが大きく役立っていくのでございます。

岸田教授は、我が国ゴルフの先駆けといってもよいほどで、全国に行く度お供をし、決ってゴルフをする。なにしろ昭和20年、戦局は厳しくゴルフ場はサツマイモ畑に代わっていたが、「サア、やろう、やろう」と、岸田教授は平気でプレー。敗戦濃厚という時にもかかわらず実に豪放な先生。

昭和39年、第一回彰国社ゴルフ大会、スコア表によると、武蔵カントリークラブ31人参加、うちシニア10人。岸田先生65歳でハンディ12、なんとワンホール回り127。郭は53歳でハンディ8、1222でベスグロ。教えを受けてメキメキ上達し、先生を追い越しハンディ3にまで上達。昭和初年代のゴルフは、今と違って政財界トップクラスの人達に限られていて、ゴルフを通して築いた人脈も大いにプラスになっていきます。

当時日比谷三井ビルが、山下寿郎事務所の設計、鹿島建設の施工で進められていたが、敷地に巧く中庭を作ることが出来ず困っていた。そこで鹿島の今井副社長が、同級生の吉武教授の処へ、

「なにか、いい案はありませんか」
「そうですね。郭君、案を作ってみないか」
「ハイ」と、スケッチを。

このプランを見た、三井不動産の労組初代委員長の中井武彦が、

「ウーム、中々ユニークな考えを持った人だ。郭さん、日本橋三井本館前の三井第三別館の設計をお願いしたい」
当時31メートルの高さ制限があり、天井



の高さを工夫して通常の九階建てを十階建てとし、一階をオープンスペースにし、その1/3を自動車の乗り入れができるように設計、昭和三十年代半ば、今のような自動車社会ではなかったが、これからは必ず自動車時代がくると見込しての設計。使い易いようにとオフィス内の柱をなくすなど、この素晴らしい設計手腕が評価され、三井不動産建築顧問に就任。

当時、東京虎ノ門の二千坪の敷地に、オフィスビル設計画があったものの、政府の景気過熱抑制政策で一年間計画がストップしてしまった。

その後敷地は五千坪になったが、中々まとまりません。そんな夏のこと、軽井沢でゴルフ。三井不動産江戸英雄社長もゴルフ好きで、東京までの帰りの車中、

「江戸さん、日本は新幹線開通、東京オリンピックと、今発展途上です。これからは、高層ビルを建てる必要があります。31メートルの高さ制限があつては、高いビルは建てられません。地震国日本とあつて、高層建築は心配かと思いますが、必ず地震に強い高層建築を設計します。大きく発展するためには、高さ制限をなくして高層ビルを建てることです」

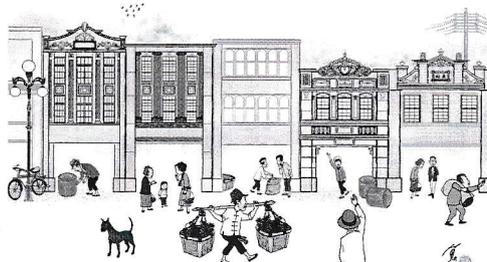
郭の熱弁に、江戸社長も、

「ウム、全くその通りだ」と、意気投合。

江戸英雄は、当時の河野一郎建設大臣に、「このままでは日本は置いていかれます。高層建築を建てて世界と肩を並べることです」熱弁をふるい、交渉を重ね、郭も建設省や東京都に出掛け交渉を重ねたが、そこにも岸田・吉武両先生の人脈が大きな力となりました。

31メートルの高さ制限・これでは九階建てしか建てられない。いよいよこれより郭の活躍は、次回のお楽しみ。

全日本電設資材卸業協同組合連合会
New Wave誌 平成29年4月28日より転載



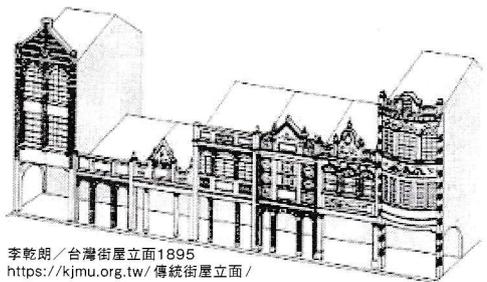
<https://www.travel.taipei/zh-tw/pictorial/article/18029>
文化街區來了！迪化街94-102(台北畫刊2018年8月)臺北旅遊網臺北市政府觀光傳播局



旧市街の亭仔脚空間 1



多様な活動を許容する亭仔脚 2



李乾朗 / 台湾街屋立面1895
<https://kjmj.org.tw/> 傳統街屋立面 /



新都心の街区を繋ぐ歩行者デッキ 3



新都心の重層的亭仔脚 4

寄稿

台湾 亭仔脚が繋ぐ 「空間」と「時間」

東洋大学 大澤昭彦

今年の2月、約10年ぶりに台北を訪れた。今回の訪問で、改めて「亭仔脚」の存在価値を認識することができた。説明は要しないだろうが、亭仔脚は建物の1階部分をセツトバックし、誰でも通れるようにしたアーケードである(写真1)。隣接する建物同士の間が連続することで、雨にぬれずに街を移動できる。

台北や東京等を含むアジア諸都市の街並みは、建物の大きさや形もバラバラで、派手な屋外広告物が出する雑然とした景観に特徴がある。そこに街の活力やダイナミズムを見出せる一方、欧米諸都市に比べて統一感や整然さに欠けることは否めない。ところが、台北の街並みは、典型的なアジア的景観であるものの、低層部分で連続す

る亭仔脚が街並みを引き締め、ある種の統一感をもたらしている。「混沌」と「秩序」が共存した街並みとも言えるだろう。

もちろん亭仔脚の役割は景観だけではない。亭仔脚によってネットワークされた台北の街は、世界的なまちづくりの潮流である「ウォーカーブルシティ」を体現している。「ウォーカーブルシティ」とは、いわば「歩けるまちなか」である。歩いて暮らしやすい街や歩きたくなる街が、都市の諸問題(街なかの衰退、環境問題、健康等)を解決する上で有用であるという考え方で、現在日本でも多くの都市でも取り組まれている(2023年5月末時点で全国351都市が「ウォーカーブル推進都市」としてまちづくりを実施)。また、歩きたくなるまちなかを実現するには、広場、公園、通りといったパブリックスペースを居心地の良い場所にすることも欠かせない。その際、通りや広場だけでなく、それらと隣接する民間敷地や建物と一体となったパブリックスペースの創出が肝となっている。

亭仔脚は、まさに歩きやすい環境を提供しており、ウォーカーブルな街を既に見現している(駐車されたバイクが歩行を阻害している場所もあるが)。また、公的な空間と私的な空間の中間領域である亭仔脚は、通行空間としてのみならず、近所の人たちが集い、飲食やおしゃべりに興じるパブリックスペースとして利用され、いわば都市生活の文化として定着している(写真2)。

つまり、台湾の気候風土を踏まえて生まれた亭仔脚は、現代的な都市の課題に適應した知恵にもなっていることに気付かされるのである。

新しい都市開発でも亭仔脚の伝統は受け継がれている。近年、老朽化した住宅を高層マンションに建て替える例が増えているが、亭仔脚のようなアーケード空間を設けるところが多いと聞く。建物の価値、ひいてはエリアの価値を高める上でも亭仔脚が不可欠な存在なのだろう。

台北101をはじめとする超高層ビルが林立する信義地区では、2階レベルの歩行

者デッキによって街区間が結ばれている(写真3)。その半屋外的な空間は、多様な活動を許容するパブリックスペースとは言えないかもしれないが、亭仔脚の特徴が見て取れる(写真4)。実際、信義地区のマスタープランを策定した郭茂林さんは、亭仔脚を意識していたとのことである。郭さんは、西新宿の高層ビル街のまちづくりにも大きく関わったことでも知られるが、西新宿では歩行者デッキによるネットワーキ化が実現できなかったことを悔やんでいたという。いわば、新宿で果たせなかった思いを祖国の地で叶えたのである。その際、亭仔脚という地域の伝統を織り込んだところに都市プランナーとしての非凡な才がうかがえる。

台北の街の基調を成す亭仔脚は、空間的に街を繋ぐだけでなく、台北に紡がれてきた長い時間をも繋いできたのである。その伝統は形を変えながらも次代の人々に継承されていくに違いない。

(東洋大学理工学部建築学科准教授)

災害救助犬「小江」 台湾で客死！

8年前、台湾高雄市政府消防局に災害救助犬として寄贈した「小江」が去る2月16日台湾で死去しました。

「小江」は先にお知らせしましたように救助犬として活動後消防局を退役した後、縁あって紀怡如さんに養育されていましたが、2月初めに体調を崩し16日癌の病により死去しました。紀さんの手により葬儀が行われ遺体は火葬に付されました。

「小江」は平成28年5月に台湾に渡り今年2月まで7年、協会の目的である国際親善のために活動してもらいました。この間

「落葉は根に帰り 小江は故郷に帰る」

—元災害救助犬「小江」の後半生—

紀怡如

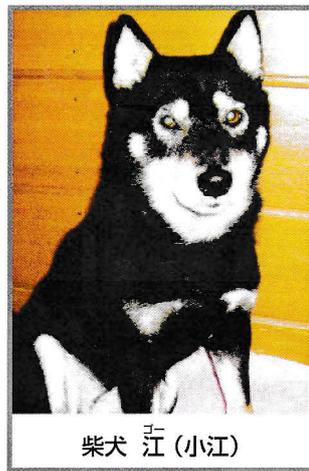
加藤さん 田代さん 湾生の使命を継続され台日交流促進のため、2015年当時日本でも稀な柴犬の災害救助犬「小江」を、台湾に台日友好親善大使として寄贈して下さったことを感謝します。

私 紀怡如は幸せなことに、運命に導かれ高雄市政府消防局救助犬センターの鄭廷芸さんを訪れ、小江に初めて会ったのは2018年11月11日でした。やんちゃで活発な性格に魅了され、台北の家に戻っても、その思いはずっと忘れられませんでした。

時が経つのは早いもの、2020年春、小江が退役する知らせを受け内心驚き又喜びました。規定通り引取り縁組手続きを

「小江」の指導に当たっていたいただいた高雄市政府消防局捜救犬訓練中心ならびに退役後の愛育者 紀さんご家族に厚くお礼申し上げます。

5月15日に紀さんは遺骨を持って来日されたので「小江」贈呈当時の理事長田代實範と理事加藤美智子が成田空港で迎え、遺骨を受け取りました。



柴犬 小江 (小江)

済ませ、政府機関の審査承認を待つて、終に2020年3月6日小江を無事家に迎えることができました。

まず小江に家族と環境を紹介し、次に小江の部屋を教え、餌と水を置きそつと小江に話しかけました。「小江私達の家に来てくれて有り難う。これから私達はあなたの家族、しっかり面倒を見ます。私はあなたの家、状況が許す限り、あなたは私と一緒に、元気でいてね、皆あなたを深く愛しています。」

引取り後、毎日小江を公園に散歩に連れて行き、新しい犬の友達を見つけたら、一緒に出かけて友達に紹介したり、親戚や友

人の集まりはもちろん、国内旅行、出張など、状況が許す限り日台親善大使として連れて行きました。お寺の課業に行く時ですら小江を連れて行きお経や説法を聞かせました。小江は一緒にいることが一番、一緒にいれば何をしても、心が安定してこの上なく幸せでした。

可愛い小江は人気者で、どこに行っても皆小江と写真を撮りたがりました。犬を怖がる人も、小江のために犬好きになりました。誰かが花を愛し、花が咲くのを見る、その魅力は止められません。養子として迎えている間に多くの人と友達になりました。おとなしい性格で、一度も怒ることがありません。私達はただ黙って寄り添い守り合うだけ。この思いがけない出会いを記録するため、私はいつでもスマホを取り出して、小江の生活のあらゆる部分を記録できるようにしていました。小江は当初写真が好きではありませんでした。後にカメラを見て微笑むよう指示を聞くことができるようになりました。賢いだけでなく、とても理解力が高いのです。家中みな痛いほど充分に小江を愛しました。年越しに受け取るお年玉(紅包)は年々多くなり、小江は本当



お年玉(紅包)に囲まれる小江

にとっても幸運な子でした。

感染症流行時に台湾ではレベル3の警報が発令され、生活は多くの制限を受け、犬の散歩や日常の買い物以外、ほとんど外出できませんでした。その分、食事や起居生活、一緒に過ごす時間が増え、私達はますます親密になり、まるで運命共同体のように、一緒に沢山の楽しい思い出を創りました。

けれども、生命には独自の定めがあり、いつやってくるか、いつ去るのかは予測できないものではありません。

2023年2月10日、小江は突然エネルギーを失い、元気がなくなったように見えました。私はとても緊張して、急いで血液検査やレントゲンなどの健康診断を受けさせましたが、体調不良の原因は見つかりませんでした。医師は内臓に腫瘍の可能性があると診断するも、高齢で手術には適さない、とりあえず家に連れて帰り休養して経過観察するよう勧められました。その後数日小江は食欲不振で、嘔吐する症状が現れ始めました。家中非常に心配して一歩も離れず世話をし、痛みが和らぎ、早く回復するよう祈るばかりでした。

しかし、運命の変化は予測不能です。次の数日で、小江の体がどんどん弱っていくのを感じました。私はすぐに高雄市政府消防局の鄭さんに電話をかけた報告し、励ますよう頼みました。鄭さんは「小江、あなたは役目を果たしました、肩の荷を下ろしてください！」と声をかけてくれました。それから私は日本の鄭さんにも電話して、小江に話しかけ、励め励ましてくれるよう

頼みました。誰もが悲しいけれども、小江にこれ以上その痛みを味わってほしくありません。「小江、あなたが何を選択しても、私はあなたを祝福します。」私は小江に云いました。

2月16日午前5時27分、小江はついに体の痛みから解放され、息を引き取りました……

私は小江の体を抱いて共に夜明けを迎え、云いました。「私の家族になつてくれて有り難う。あなたとの巡り合わせは本当に私の人生の中で幸福な事。沢山のことを教えてくれて、疫病の困難な時期には、私達家族に付き添ってくれて有り難う。私はあなたの痛みを耐えられません。今あなたは自由になりました。一切を手放し、安心して天使になってください。私達はまた必ず再会できると信じています。永遠にあなたを愛します。」厳肅に小江に感謝し、赦しを請い、愛を告げました。

2月18日、小江のために荘厳丁寧な告別式を行い、大勢の友達も一緒に見送り、冥福を祈りました。小江はまるで眠っているようで、顔は微笑を帯びまだ生きてるようにみえ、身体は綿のように軟らかでした。葬礼師も非常に稀な現象で、祝福された犬だと称賛され、小江は何も心配せずに旅立ちました。

けれども私は内心知っていました、小江の生涯の願いは再び自分の故郷に帰る事だと。そこで私は小江を日本に連れて帰すことを決心しました。何年も前の日台交流の善意を継続し、小江の役目を完結させてあげましょう。

5月15日、私は遺灰を抱き、弟と姪の三人で小江の帰国の途に踏み出しましたが、道中ずっと涙が止まらず、感慨無量でした。私達の愛は小江を家まで送り届ける祝福に変わりました。

成田空港に着くと、小江の映像を持って迎えに来た加藤さん、田代さん、鄧さんと飯田さんに会いました。小江の像には当時使っていた紐がまだ掛けられていて、心を突き動かされ涙が止まりませんでした。

空港で互いに挨拶し、正式に小江の遺灰を引渡しました。「加藤さん 田代さん、すみません。こんな形で小江と再会させることになってしまつて、本当に、本当に申し訳ありません！」

「小江のおかげで私達は知り合いました。友情を昇華し、小江の精神を未来に引き継ぎ、これからも日台友好の愛を発揚し続けますように。」

元災害救助犬「小江」の遺骨を日本に迎えて

会員 田代實範

「小江」の訃報を知らせてくださった飼い主の紀怡如さんから柴犬「小江」の遺骨を持って日本に行きますとの話があったのは四十九日が過ぎた頃であった。日本に行くのは初めてなので三人で行く、お会いするのを楽しみにしていますとのことでした。それまでに何度も「小江」のかわいらしい写真や元気な姿の動画を送ってもらっていたのでこの連絡はうれしかった。

有り難いことに先輩方が、わざわざ空港に出迎えて、成田山を案内して下さり、新宿で夕食後、ホテルまで送っていただきました。翌日は、観光バスで東京の有名な観光地を巡り、再び夕席を設けていただくなど熱烈的な歓待を受けました。

三人とも大感激で、このような出来事や出会いに感謝し、この美しい縁を日台交流の好い物語に育てたいと肝に銘じました。運命に従い最善を尽くし、ただ人生の充実を追い求めます。この日台交流の物語はまだ終わらずに続きます……

感謝、加藤女士、田代先生
感謝、高雄市政府消防局
感謝、小江の台日家族の全員
最後に感謝、人生最愛の小江
あなたは永遠に 永遠に 永遠に私の胸に生きています。

「小江」を台湾に贈与する任に当たった私と加藤美智子理事は喜んで受けることにし、案内のあれこれを考えた。5月15日運転手付きの車を雇って通訳の鄧さん、協力者の飯田さんと成田空港に駆け付けた。紀さんは弟の冠宇さん、いとこの王郁欣さんと共に「二一ハオ」と笑顔で現れて明るく挨拶された。30代からそれに近い年ごろの元気な若者と見た。

やおら荷物から「小江」の遺骨を取り出して「ゴーちゃんです、と目に涙を浮かべて差出し、最後の模様を語ってくれた。思わずきゅんとなった。私たちは亡くなるまでの3年間大事に飼育していただいたこ



成田空港で遺灰の引渡し
写真左下は小江の映像

車で成田山新勝寺に案内した。次いで都庁大展望室、眼下に広がる東京の夜景を眺めてもらい、旅の疲れをいやしてもらった。翌日は都心遊覧のはとバスに乗り案内した。好天に恵まれ爽やかな風に吹かれて喜んでもらった。3人は陽気で手渡したミニ鯉のぼりをなびかせながら楽しさいっぱいを顔を品のよい所作を繰り返した。こちらがうれしくなった。一方で高齢の私を氣遣って手を差し伸べたり体を支えてくれたりしてとてもありがたいと思つた。

アマヤ横町を案内しはじめると早速気に入った靴を見つけて買求める履き替える。軽い足取りで西郷隆盛銅像へ。寛永寺清水観音堂、ここでは興味がわいたようではなし見入っていた。浅草雷門は好奇の目を輝かせているので仲見世通りを気ままに歩いてもらった。私もここでささやかな飾り物を求め贈った。中華料理店の龍一吟に案内する。元会員が経営するおいしい店だ。ここで乾杯し料理を味わってもらった。日本のビールはおいしいという。

感心させられたのは耳にした日本語を口にして身に着けようとするので、簡単な会話はすぐにできるようになるだろうと思った。

一週間滞在し富士山、デズニランド、川越、鎌倉と遊んだようで、帰国の前夜は誘いがあって大久保のレストランで馳走になった。紀さんはタレント、弟もタレントにデザイナー兼務、いとは専門技術者とのこと、帰ったらまた働きますと語った。和気あいあいとした雰囲気を感じて、別れに三人は私たちと肩を寄せ合い、日本の歌を歌ってくれて名残を惜しんだ。つらつら思うに「小江」は高雄市政府消防局の救助犬として活動でき、退役後は心優しい飼い主にかわいがられて、日本に帰れなかったが余生を幸せに過ごすことができて幸せだったと思う。今頃は日台親善交流の絆を深める活動ができた喜びを天国で享受していると信じています。

「江」については会報10・11・13・19・20・22・24号で関連記事がご覧になれます。会報バックナンバーは本会ホームページでご覧ください。

紀怡如さん寄稿 原文

「落葉歸根 小江回家吧」

紀怡如

感謝 加藤女士田代先生當年為促進日台交流、延續灣生的使命、於2015年捐贈日本稀有的柴犬搜救犬、小江來台成為日友好的親善大使本人紀怡如十分榮幸在緣分牽引之下探訪高雄市政府搜救犬中心的鄭廷芸小姐、於2018/11/11初見小江、被它淘氣活潑的氣質給深深吸引。即使北上回到家後、依舊念念不忘

時光飛逝、2020春分時節、收到小江退役的消息！內心又驚又喜。依照規定辦理了領養手續、等待政府機關審核、終於在2020/03/06順利接小江回家

首先為它介紹家裡成員和環境、再將小江的房間、飼料和水放置好。輕聲細語地跟說：「小江謝謝你來我們家、現在我們是你的家人、會好好照顧你、我就是你的家、只要情況允許、我在哪裡你就會在這裡、你要乖乖唷、我們都會很愛你。」

領養後、每天都帶小江去公園散步、帶它去認識狗狗新朋友、或者是跟著我出門、把我的小江介紹給身邊的朋友認識、無論是親友聚會、國內旅遊甚至出差工作、只要情況允許都會帶著它去發揮台日親善大使的任務、即使去佛堂上課也會帶著它去聽經聞法、小江最快樂的事情莫過於和我在一起了、只要一起無論做什麼事都開心、內心感到安定、無比的幸福。

可愛的小江人緣非常好、走到哪裡都有人要和它拍照、連怕狗的人也因為它而喜歡小江了、可說是人見人愛花見花開、魅力無法擋、領養它的這段期間跟好多人廣結善緣、個性溫馴的它從來沒有發過脾氣、我們就這樣默默地陪伴守護彼此、為了紀念這得來不意的相遇、我總是不時拿出手機幫它記錄生活中的點點滴滴、雖然它一開始不太喜歡照相、但是到後來已經會聽指令看鏡頭、對鏡頭展開笑顏、

不只聰明悟性還非常高、我們全家都十分疼愛它、過年領到的紅包也越來越多、小江真的是一隻很有福氣的寶貝。

即使後來面臨疫情來襲、台灣發布三級警戒、生活上受到許多限制、除了遛狗、日常採買、大家幾乎都不能正常出門、正因為如此、我們多了更多相處的時光、飲食生活起居、無時無刻不在一起、感情也越來越緊密。我們就像生命共同體、一起創造各種快樂的回憶。

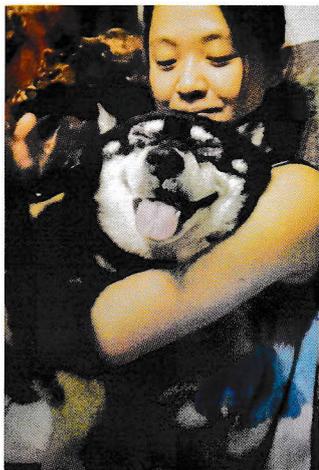
但每個生命都自有安排、何時來臨何時離開、都不是我們能預料的。

2023/02/10發現小江突然失去活力、看起來懶洋洋、內心非常緊張、趕緊帶它去檢查身體、驗血、照X光、卻查不出有任何造成身體不適的原因、醫生判斷可能是內臟長了腫瘤、但由於年事已高不適合開刀、建議先帶回家觀察休養、後來幾天小江食慾不振、開始出現嘔吐的現象、當時全家都非常擔心寸步不離地照顧它、只希望它能減輕疼痛早日康復。然而命運的變化豈能預料、後來幾天感覺它身體越來越虛弱、我趕緊打電話、向高雄市政府消防局的鄭小姐回報、也請她跟它說說鼓勵的話、鄭小姐：「小江你的任務完成了、請你放下吧！」接著也打電話給鄭姐、請它跟小江說說話、安慰鼓勵它、大家內心雖然不捨、但更不想讓它承受病痛折磨。小江、無論你怎麼選擇、姊姊永遠都祝福你。這是我對它說的話。

2023/02/16 AM 05:27 小江最終解脫身體的病痛與世長辭了...

我抱著它的大體一起到天亮、告訴它：「謝謝你成為我的家人、遇到你真的是我人生中很幸福的一件事、感謝你教會我很多事情、陪伴我們全家一起走過疫情艱辛的時刻、姊姊捨不得你痛苦、現在你自由了、請你放下一切、安心的去當天使、相信未來我們一定會再見、我們永遠愛你。」慎重地向小江道謝、道歉與道愛。

2023/02/18為小江辦理莊嚴隆重的告別式、好多朋友也一起來為它送行、祝福它。



小江看起來像睡著一樣、還帶著淺淺的微笑、面目如生、大體身軟如棉、連禮儀師都讚嘆、說這現象很罕見、它是隻很有福報的狗、了無牽掛的離開。但我內心知道、小江畢生的願望是再回到自己的故鄉。因此我決定擇日親自送小江回日本、讓這多年前日台交流的美意得以延續、使它圓滿。

2023/05/15我、弟弟與表妹、三人抱著小江的骨灰帶它踏上這一段回鄉之旅、沿途眼淚一直停不下來、感慨萬千、我們的變化成祝福一路護送小江回家。

令和五年度総会報告

6月25日に練馬ココネリ会議室に於いて令和5年度の総会を開催、出席者による審議の結果、提出された七つの議案全案が賛成多数で承認・決定されました。

- 第1号議案 令和4年度事業報告
 - 第2号議案 令和4年度会計報告
 - 第3号議案 令和4年度監査報告
 - 第4号議案 令和5年度事業計画
 - 第5号議案 令和5年度予算
 - 第6号議案 議事録署名人の選出
- 本年度予定事業
 映画上映等事業
 ・協会製作のドキュメンタリー映画「空を拓く建築家・郭茂林という男」の上映会実施。
 ・会報の発行
 ・国際親善交流事業
 ・「オール台湾デー」の開催
 ・台湾人戦没者慰霊参拝

いい人ネットワーク



特定非営利活動法人
ベシックライフインフォメーション協会

団体交流

靖国講談会

当協会に度々ご協力をいただいている講談の一龍齋貞花師匠の恒例の靖国講談会が5月3・4日に開催され、田代名誉理事長と加藤理事が参加しました。靖国講談会は、毎年開催され今年で二十三回を数え、靖国神社内苑にある靖国会館でゴールデンウィークの年中行事として定着しています。コロナ禍の中断を経て現在に至りましたが、

第二十三回「靖国講談会」・開催中

五月三日 水祝 四目(水祝) 午後1時45分開演
 五月四日 太陽祭 午後1時45分開演

靖国会館(靖国神社) 東京都千代田区九段下
 入場料 千五百円 終演 午後四時予定

○チャリティ収益を、特定非営利活動法人「東京聖生連協会」(公財)日本財団国際交流財団(公財)国際親善交流財団に寄付

五月三日 水祝 午後1時45分開演
 五月四日 太陽祭 午後1時45分開演

一龍齋 貞花 長講口演
 五月三日 水祝 午後1時45分開演
 五月四日 太陽祭 午後1時45分開演

一龍齋 貞花 長講口演
 五月三日 水祝 午後1時45分開演
 五月四日 太陽祭 午後1時45分開演



残念なことに今回が最終回になるとのことです。これまでの師匠のご尽力に敬意を表します。

靖国会館の傍には大戦後の東京裁判で裁判官中唯一の国際法専門家として客観的な審判を買ったインドのパール判事の記念碑があります。そのパール判事を題材とした創作講談は貞花師匠のライフワークの一つであり、その長編の口演が靖国講談会の翌月6月15日にお江戸日本橋亭で催され注目を集めました。

東京裁判判決七十五年
『東京裁判とパール判事』
 一龍齋貞花 長講口演
 六月十五日(水) 午後一時開演
 お江戸日本橋亭
 入場料 千五百円(前売 千円)

パール判事の碑

他出演(一龍齋貞花・一龍齋貞可・一龍齋貞彦)

玉川大学教育博物館訪問

玉川大学教育博物館(東京都町田市)には、旧制台北州立台北第一高等女学校(現在台北市立第一女子高級中学Ⅱ北一女)関係の資料が寄贈され、収蔵されています。6月17日 田代名誉理事長と加藤理事は旧制北一女の卒業生三人を同博物館に案内し、寄贈されている北一女関係の資料が利用できるよう学芸員を紹介しました。



一走出日本の成田機場、我々見加藤女士、田代先生、鄧姐和飯田小姐帶著小江的雕像一同前來接機，上面還有當年小江使用的牽繩，眼淚更是不聽使喚，實在是太令人動容了。我們在機場相互寒暄，也正式將小江的骨灰移交給加藤女士和田代先生兩位對不起，讓你們以這種方式和小江團圓，真的非常非常抱歉！我們因為小江而認識，將情誼昇華，未來還要帶著小江的精神，將這份台日友好的愛繼續發揚下去。

感謝幾位長者的用心，特來接機，帶我們走訪成田山前往新宿用餐，再送至民宿安頓。隔天熱情接待我們搭乘觀光巴士，認識東京都以及各知名觀光景點，晚上另設宴款待

我們三位銘感五內，感恩這一切發生與相遇，使這一樁美好因緣成為台日交流的一段佳話

盡人事聽天命，人生只求一個圓滿，此段台日交流的故事未完待續……

謝謝加藤女士、田代先生
 謝謝高雄市政府消防局
 謝謝小江(台日家族)所有成員
 最後謝謝我此生的摯愛小江，你永遠永遠永遠在我的心中

紀怡如 2023/07/05

特定非営利活動法人(NPO)
ベシックライフインフォメーション協会
活動概要

○ベシックライフインフォメーション協会は、日本と台湾の親善友好交流を目的とした活動を行っているNPO法人です。会員の会費と拠出、有志の寄付によって運営する自立したボランティア団体です。

○「基礎生活資訊協會」係本著以日本以台湾親善友好交流為目的、舉辦活動之NPO法人協會。就是由於會員會費及各方捐款自主營運的志工團體。

協会ホームページ

http://blia.jp

Facebook <https://www.facebook.com/bliassoc>

協会製作ドキュメンタリー映画

「空を拓く建築家 郭茂林という男」

ホームページ (現在更新工事中)

<http://sorahiraku.com/index.html>

■会報のバックナンバーは当協会ホームページからご覧になれます。
URL <http://blia.jp> のトップページから「会報」をクリック

◆会員募集中◆

日本と台湾を主に国際的親善活動を行います。無償のボランティアです。意欲と行動力のある方。

年齢・経歴は問いません。

お問い合わせは事務局まで。

構成員名簿

令和5年8月現在

多量理事	田代 實範※	鳥羽 展維※
理事長	児玉 治	豊川 玉蘭
理事	加藤美智子※	仲里 建良
理事	中村 和利	中村 佳代
監事	郭 純※	中村 敏矢
	上里 佑子	成田 陽一
	エム・デーモスタフイズル	根本 崇
	ラハマン・ムフル	畠中 治憲
	江波戸つぎ	林 銀
	折笠 大介	一青 妙
	神林 有香	松山 達郎
	栗原 耕	村尾 則広
	洪 彩栗	吉川 則孝
	島本 信子	(株)K'sトラスト
	須貝 克俊	(担当)山下賢久
	等々力太偉	

※は映画製作実行委員会委員

訃報

会報23号にライフワークの「植民地台湾の日本女性生活史」を寄稿された中村信子さん(ペンネーム竹中信子)が6月9日逝去されました。享年92歳。中村さんは台北生れ、蘇澳育ちの湾生で、映画「湾生回家」にも出演されました。
謹んでご冥福をお祈りします。

●編集後記●

○第25号お待たせいたしました。

○災害救助犬「江」(台湾愛称「小江」)の思いがけない訃報が飛び込んできました。前号でその半生を取上げたばかりでの衝撃でした。日本で育てて台湾に寄贈した加藤・田代両会員と、台湾で引退後の小江を養育していた紀怡如さんにとつての悲しみは第三者に計り知れませんが、そのお気持ちと、小江を介し

ての友好交流について双方に寄稿いただきました。紀さんの寄稿原文は中国語で協会に翻訳をしましたが、正確を期するためと、中国語の判る読者のために原文も併せて掲載しました。

○講談の一龍齋貞花師匠は、建設資材業界誌に十年近く連載を続けておられます。その中に当協会ドキュメンタリー映画を製作した台湾出身の建築家郭茂林に関する連載があり、師匠のご好意でその部分の転載をお許しいただきました。4回の連載を予定していますので、目で聴く講談としてお楽しみください。

○2018年に当協会で講演をされた超高層ビル・都市計画研究の第一人者である大澤明彦先生が久しぶりに台湾訪問をされ、お忙しい中その感想を寄稿いただきました。「亭仔脚」に焦点を当てた解説が、台湾独特のまちなみの理解を深め、皆様が台湾に行かれた際のまち歩き参考になれば幸いです。

○世の中はコロナ禍前に戻りつつありますが、会場確保の都合で今年前半はイベント型活動がありませんでした。次号では、イベント活動紹介が記事にできることを期待しています。

○日本語以外での寄稿・投稿・近況なども、こちらで翻訳しますので、歓迎いたします。

特定非営利活動法人

ベシックライフインフォメーション協会

会報第25号

発行日 令和5年9月18日

発行所 東京都練馬区石神井町六一二一三

電話 〇九〇一二九〇六一九八七六

発行人 児玉 治